

## euroCRIS-13<sup>th</sup> Biennial Conference on Research Information Management 参加報告

### 概要

euroCRIS は EU を中心とした研究情報の標準的データモデル CERIF (Current European Research Information Format) に関する研究開発および技術向上を目的とした非営利組織である。2 年に一度、欧州の研究機関、大学から参加者を募り会議を開催している。

CERIF の推進の理由は幾つか考えられるが、大きな要因として EU 圏内の国々で様々な競争的研究資金が提供されており、研究成果情報を統一的に取り扱えるデータモデルが必須となっている。大学や研究機関は独自の研究情報データベース（これを Current Research Information System、略して CRIS と呼ぶ）を持っている場合が多いが、CRIS 毎の独自のデータスキームではデータ交換や統合化が難しいので、CERIF を定義し、各 CRIS は CERIF に沿ったデータを出力できるようにしているのだという。

近年は、政府が統一した CRIS を構築する例や、Thomson Reuter などの商用 DB を提供する業者による CRIS、または ORCID などの非営利団体による CRIS の利用が高まりつつあり、機関の CRIS とこれらの CRIS とのデータ互換については、ますます重要性が増している。

euroCRIS の事務局秘書である Arjan Hogenaar 氏より、国内統一の CRIS で成功を収めているオランダ王立アカデミーの NARCIS の管理者や（Hogenaar 氏は NARCIS の元管理者）、および European University Information Systems Organization のボードメンバを紹介していただいた。

今回の調査結果をもとに、CERIF への対応や、T2R2 と STARSearch の今後の展開について検討していく予定である

### 内容の紹介

#### ① 基調講演 "Open Science Cloud"

- EU は open science cloud を推進している。とりわけデータの公開は重要な要素である。
- しかし、蓄積される情報の 90% はここ 2 年に取得された者にすぎないという調査結果もある。
- 科学技術の情報は FAIR principle であるべき。
  - 検索可能 (Findable)。
  - 取得可能 (Accessible)。
  - 互換 (Interoperable)
  - 再利用可能 (Reusable)。

参照 <https://www.force11.org/fairprinciples>

- EU の科学技術コミッショナーは、2020 年までに EU の資金の元で研究された論文は全

て Open Access にすると決定した。

- Open Access, Open Science + Cloud Service は、EU で実現していこう。

〔所感〕 この会議においては EU の財政困難が通底していることが感じられるが、最初の基調講演からその空気であった。講演者はもともと生命科学者であり、資金獲得を踏まえた研究成果の情報公開についての講演であった。FAIR principle は、EU の研究者の間で浸透しつつある考え方である。

### ② 基調講演 “Massing Research Responsibility with CRIS”

- 研究活動の責務を CRIS によって統一的に集める取り組みに関する、欧州の状況とその周辺事情に関する講演。
- 国による統一的な CRIS の成功例。
  - オランダ NARCIS。
  - ノルウェー CRIStin。
  - 他にノルウェー、チェコ、ポルトガル、デンマーク。
- Snowball Metrics はエルゼビアが提唱している大学間のベンチマーク指標であり、CERIF によるサポートが開発されつつある。今回の会議でも発表がある。
- Leiden Manifesto とよばれる研究評価を導くための 10 の原則が話題になっている。STI conference (バルセロナ、2016 年 9 月) でもこの話題が議論される。

〔所感〕 講演者は計量書誌学者で、今回の euroCRIS の会議に研究評価の指標に関するセッションを導入した。特にベンチマークに関する第 2 の考え方について、euroCRIS の立場からの提案がなされた。Snowball metrics や Leiden Manifesto を参考にしながら、CRIS によって収集されたデータを活用した研究活動の評価を主張されていた。これは、QS や THE による大学ランキングへのアンチテーゼである。

### ③ “Towards a CERIF-ORCID API Adopter:”

- ORCID と CERIF 形式のデータのデータ交換を可能にする API の開発報告。現段階で進行中のプロジェクト。
- 現段階では、ORCID のデータを読み込むだけの API である。
- OpenAIRE (Open Access Infrastructure for Research in Europe) semantics を利用した。
- euroCRIS と ORCID は戦略的パートナーシップを 2013 年から結んでいる。
- ユーザの要望として、次のような状況を仮定する。「一人のユーザの情報を ORCID から CERIF 形式の XML データとして取得できれば、CERIF をサポートする CRIS に投入することができる」
- 幾つかの課題が明らかになった。特に、ORCID のプライバシーレベルを CERIF でどう取り扱うかの問題や、使用言語に関する属性の取り扱いの差の問題などである。

〔所感〕 ORCID は欧州では比較的浸透しているようである。技術的困難もあるようだが、CERIF 形式のデータ変換が可能になれば、ORCID が持っている書誌情報の利用が促進さ

れるので、さらに ORCID の登録が進むと思われる。

#### ④ “Research and Development Statistics Information Systems”

- 先の CERIF と ORCID 間のデータ交換 API の取り組みと同様、統計情報に関するデータフォーマットの標準である SDMX (Statistical Data and Metadata eXchange) 形式と CERIF 形式を統合的に取り扱えるシステムの開発報告。
- 研究と開発に関する成果の統計情報は、SDMX 形式で報告されているが、一方で、個別の成果情報は CERIF 形式で CRIS から得られる。
- 開発したシステムは両者の形式を取り扱うことのできるシステムである。

〔所感〕日本国内では、研究情報のデータ形式や他の標準データ形式との互換性などの話題があまりなされないが、欧州では活発に議論され実用的なシステムが開発されつつある。

#### ⑤ “Regional Portal FVG: effective interoperability through DSpace-CRIS and open standards”

- イタリア東北地方における 3 つの研究機関の共同 CRIS システムの開発報告。
- この 3 機関は、10 年ほど Open Access を推進してきた。10 万本の論文を蓄積している。
- DSpace (リポジトリシステム) をベースにしたシステムである。
- ハーベスティングにより、CERIF-XML 形式でデータを取得可能。

〔所感〕リポジトリを基にした CRIS システムは、本学の SS-RR と共通点がある。今後、このシステムについて追跡調査し、CERIF 対応の参考事例としたい。

#### ⑥ “Snowball Metrics – providing a robust methodology to inform research strategy”

- 2010 年より、英国の研究型大学を中心として、エルゼビアとの共同で開発されている、研究大学ベンチマーク指標集である。

- University of Oxford
- University College London
- University of Cambridge
- Imperial College London
- University of Bristol
- University of Leeds
- Queen’s University Belfast
- University of St Andrews
- Elsevier

- 大学や研究資金提供者、政府間での比較可能な情報および指標となっている。

〔所感〕研究型大学のベンチマーク指標としては世界初のものであり、室が本学の組織的な研究活動指標として、学内外に情報を提示する場合の有効なフレームと言える。